

令和5年度第1回

区民ミーティング 報告書

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会



豊島区民社協キャラクター

ふくみん

ふくじい

目的・テーマ 内容



目的・テーマ

テーマ：みんなで話そう地域のこと、これからのこと

地域福祉活動計画及び地域福祉計画への意見聴取を行うため、全圏域同一テーマで実施。

内容

- ・豊島区地域保健福祉計画、豊島区民地域福祉活動計画の紹介
- ・グループで情報共有／意見交換、全体共有
- ①あなたが住んでいる（関わっている）地域で、課題だということや不足していると思うこと

課題解決やより良い地域社会づくりに向けて、

- ②どのような取り組みがあるといいか
- ③既に取り組んでいること、これから取り組みたいことはあるか

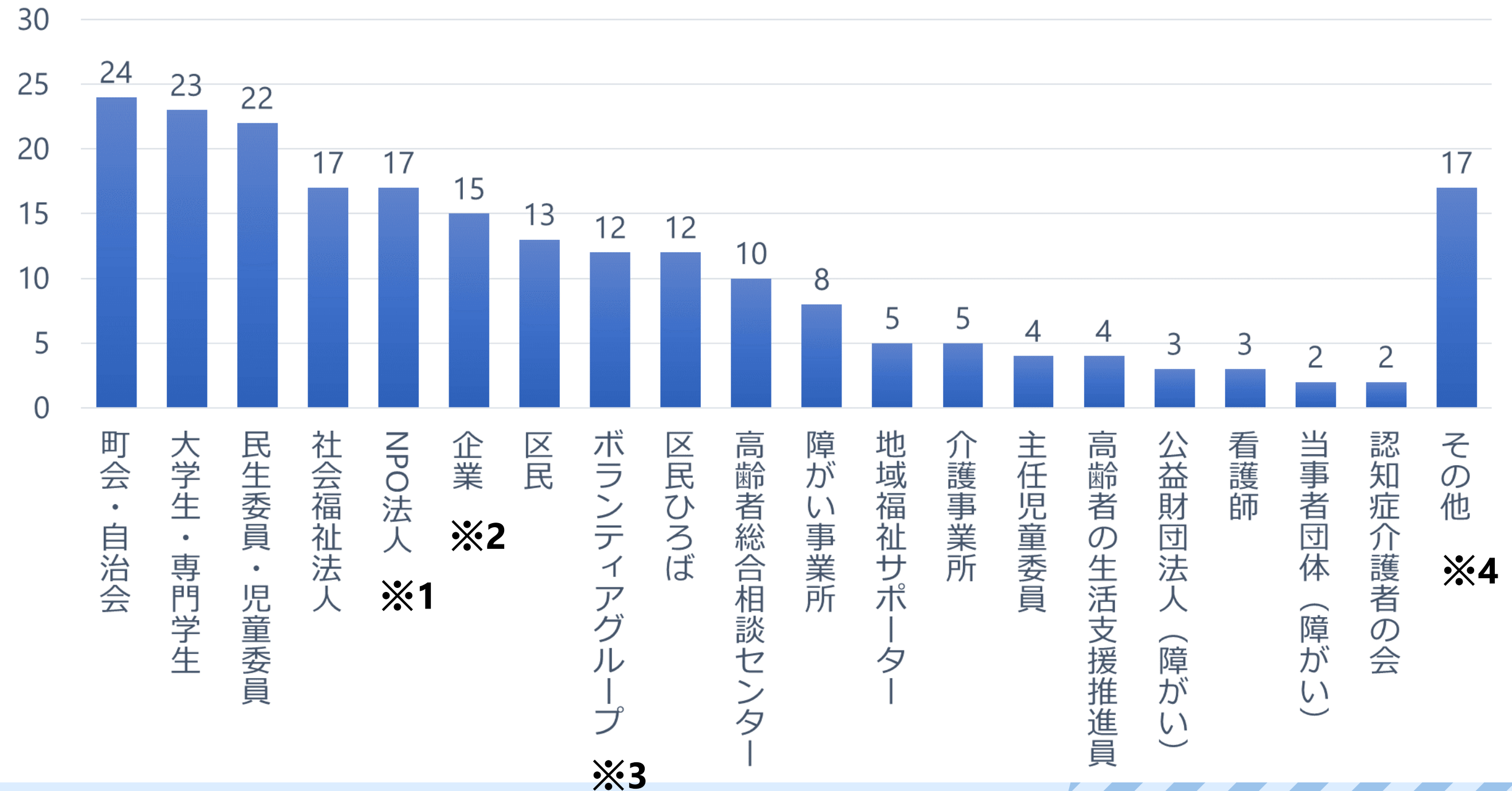
実施状況

圏域名	日時	会場	参加者数
中 央	6月30日(金)	上池袋コミュニティセンター	22名
豊島区医師会	7月3日(月)	IKE・Biz（イケビズ）	27名
ふくろうの杜	7月4日(火)	雑司が谷地域文化創造館	34名
いけよんの郷	7月5日(水)	池袋第二区民集会室 (区民ひろば池袋内)	16名
アトリエ村	7月6日(木)	区民ひろば富士見台	31名
菊かおる園	7月13日(木)	巣鴨地域文化創造館	26名
東 部	7月19日(水)	南大塚地域文化創造館	29名
西 部	7月25日(火)	区民ひろば要	33名
参加者合計			218名



参加者
属性

令和5年度第1回区民ミーティング 参加者属性（延べ）

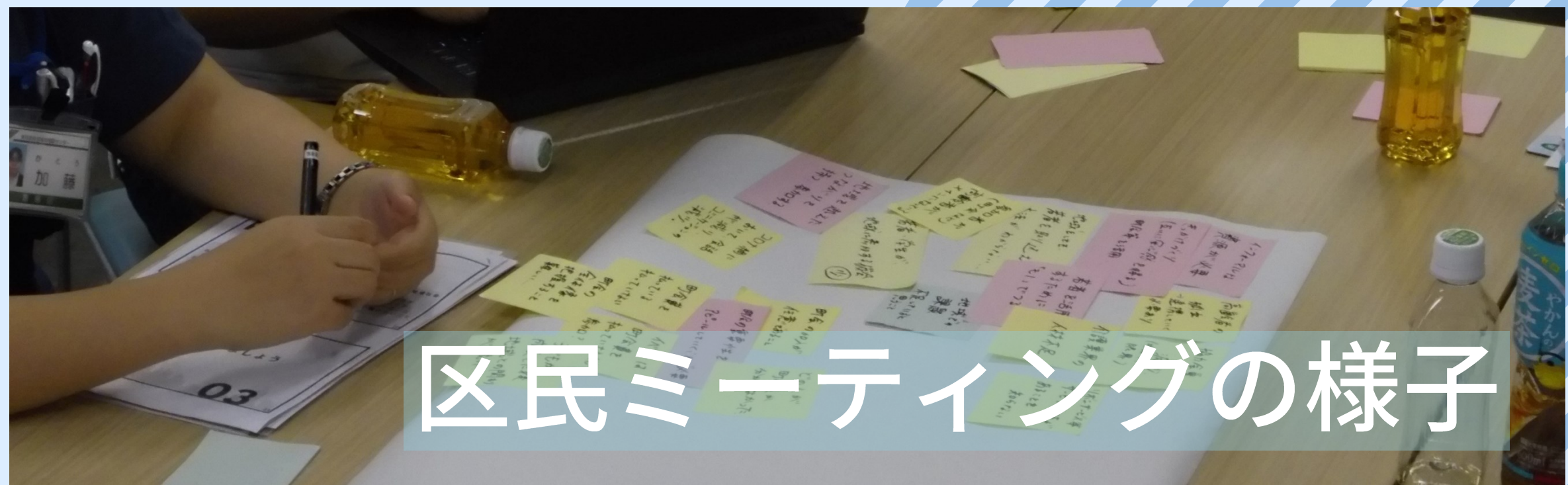


※1 NPO法人（主な対象）：子ども、ひきこもり、若年女性、高齢 など

※2 企業（内訳）：高齢者支援14（同一法人スタッフ）、食品会社1

※3 ボランティアグループ（主な対象）：子ども、高齢、障がい、外国人、誰でも、まち歩き など

※4 その他：銭湯、信用金庫、警察、図書館、公益社団法人（外国人）、青少年育成委員介護予防リーダー、フレイルサポーター、ジャンプ、介助者(視覚障害、聴覚障害) など



区民ミーティングの様子

02

意見 まとめ

高齢者

- 移動や買い物、ゴミ出しが大変
- 生きがいややりがいづくり
- 高齢者によるまちの歴史の伝承
- 相談をしたり、他人を頼ったりすることを拒否する方へのアプローチ
- 区民ひろば等へ来れない方の支援
- 認知症の方が活動できる場がほしい

若者

- 若者（子どもと大人の間）の居場所がない
- 若者を支援する体制がない
- 若者の自殺が増えている
- （親の困窮などで）学生の経済的負担が増えているが、学業等も忙しく地域活動に参加することが難しい

子ども・家庭

- 子どもたちの経験を増やす機会の創出
- 幼少期から地域になじむことが大切
- コロナで子ども食堂がなくなった
- 学習支援や子ども食堂の情報を得られない人がいる
- 子どもの居場所が足りない
- 産前産後ケア、育児・子育てのサポートが必要

多文化共生

- 外国籍の方と地域の人との交流が必要
- 外国籍の方への日本語学習支援
- 外国籍の子どもへの日本語学習、学習支援が必要
- 保育園や学校と、外国人の親とのやりとりに課題
- 雇用が不安定で生活に困窮している
- 外国人のワンストップ窓口がない

02

意見 まとめ

居場所・交流の場

- 居場所が不足している
- 誰でも・いつでも立ち寄れる場所があるといい
- 集えるサロンが近くにない
- 中高生やハンディのある人、多世代の交流
- 自分を受け入れてくれると感じられる場所

理解・啓発

- 障害への理解を深め、住みよいまちづくりをする
- 8050問題、ひきこもり、ヤングケアラーなどの理解を広げる
- 中学生・高校生へ福祉教育を行う
- 地域の課題がみえにくい

小地域活動

- 多世代が意見交換できる場をつくる
- 地域の中で相談しやすい場をつくる
- コロナで途絶えた関係をどうつなげていくか

地域での見守り

- コミュニケーションが少なく、孤立や孤独の人が増えている
- 困っている人が見えにくく、支援につながりにくい
- 住民同士が言葉を交わせるような関係づくり
- 男性の社会参加が少ない
- おせっかいな人を増やしたい

町会

- 世帯数は増加しているが、町会への加入は少ない
- 若い人は町会活動に関心がない
- 役員の後継者不足
- マンション居住者と町会のつながり
- 町会活動のPRが必要
- おまつりなどをきっかけにつなかりを継続したい

福祉施設

- コロナで施設と地域のつながりが途絶えてしまった。
- 施設を地域に開放していきたい
- ボランティアの受入をしていきたい
- 施設のカフェで居場所づくりをしている
- 障害分野の事業所が不足している

空家

- 空家が増えている
- 空家を使って活動をしたい

情報

- 地域の課題発見をしやすくするために情報をデータ化する
- 困りごとや地域課題が見える化する
- デジタル化で取り残される高齢者への支援が必要
- デジタルと紙と両方必要
- 必要な人にどうやって情報を届けるか

02

意見 まとめ

地域福祉活動の支援と リーダーの育成

- 地元行事に若い人の参加が少ない
- 地域活動の担い手が不足
- ボランティア活動者の高齢化
- 地域福祉に関心のある人の掘り起こし
- ボランティアだけでなく有償ボランティアも必要
- 地域活動へ参加するきっかけがない

地域福祉活動の ネットワークづくり

- 地域の中で顔の見える関係づくり
- 人・場所・制度・資源をつなげる仕組みづくり
- 支援を受けた人が支援者になる仕組みをつくる
- 地域イベントをコラボしてつながりをつくる

まとめ作業の様子



協力：大正大学 社会福祉学科 有志

災害

- 災害時をみすえ、普段からつながりをつくる
- 「食」を利用して交流の場をつくる
- 災害時はボランティアマッチングアプリが必要
- 高齢・障害・子ども・外国人など、分野を超えた防災活動が必要
- 帰宅困難者への対応

みなさまのご意見をもとに 豊島区民地域福祉活動計画を 策定しました



豊島区民地域福祉活動計画（令和6年度～令和11年度）

<https://toshima-shakyo.or.jp/contents/niceplan.html>

